

第三者評価内容評価基準（児童心理治療施設版）

A-1 子どもの最善の利益に向けた治療・支援

A-1-（1）子どもの尊重と最善の利益の考慮

A① A-1-（1）-① 一人ひとりの子どもの最善の利益を目指した治療・支援が、総合環境療法を踏まえた多職種連携の取り組みで実践されている。

A② A-1-（1）-② 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、生活体験を通して発達段階や課題を考慮した支援を行っている。

A③ A-1-（1）-③ 子どもの発達段階に応じて、さまざまな生活技術が身に付くよう支援している。

A④ A-1-（1）-④ 子どもに暴力・不適応行動などの行動上の問題があった場合には、適切に対応している。

A-1-（2）子どもの意向への配慮や主体性の育成

A⑤ A-1-（2）-① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちのこととして主体的に考えるよう支援している。

A⑥ A-1-（2）-② 子どもの協調性を養い、他者と心地よく過ごすためのマナーや心遣いができるように支援している。

A-1-（3）子どもの権利擁護・支援

A⑦ A-1-（3）-① 子どもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている。

A⑧ A-1-（3）-② 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう支援している。

A-1-（4）被措置児童虐待の防止等

A⑨ A-1-（4）-① 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。

A-2 生活・健康・学習支援

A-2-（1）食生活

A⑩ A-2-（1）-① 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。

A-2-（2）衣生活

A⑪ A-2-（2）-① 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。

A-2-（3）住生活

A⑫ A-2-（3）-① 居室等施設全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。

A⑬ A-2-(3)-② 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。

A-2-(4) 健康と安全

A⑭ A-2-(4)-① 発達段階に応じて、身体健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。

A⑮ A-2-(4)-② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。

A-2-(5) 性に関する支援等

A⑯ A-2-(5)-① 子どもの年齢・発達段階等に応じて、性をめぐる課題に関する支援等の機会を設けている。

A-2-(6) 学習支援、進路支援等

A⑰ A-2-(6)-① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援に取り組み、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。

A-3 通所支援

A-3-(1) 通所による支援

A⑱ A-3-(1)-① 施設の治療的機能である生活支援や心理的ケアなどにより、通所による支援を行っている。

A-4 支援の継続性とアフターケア

A-4-(1) 親子関係の再構築支援等

A⑲ A-4-(1)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立し、家族関係の再構築に向けて支援している。

A⑳ A-4-(1)-② 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。